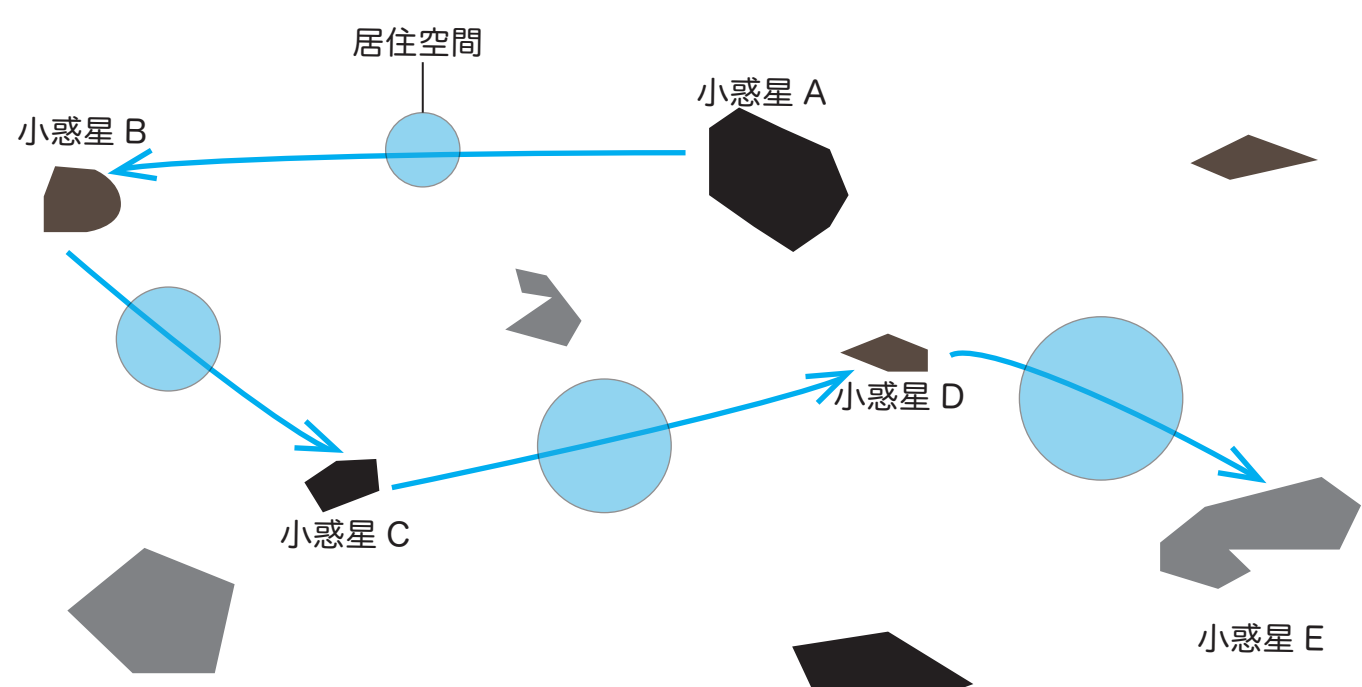
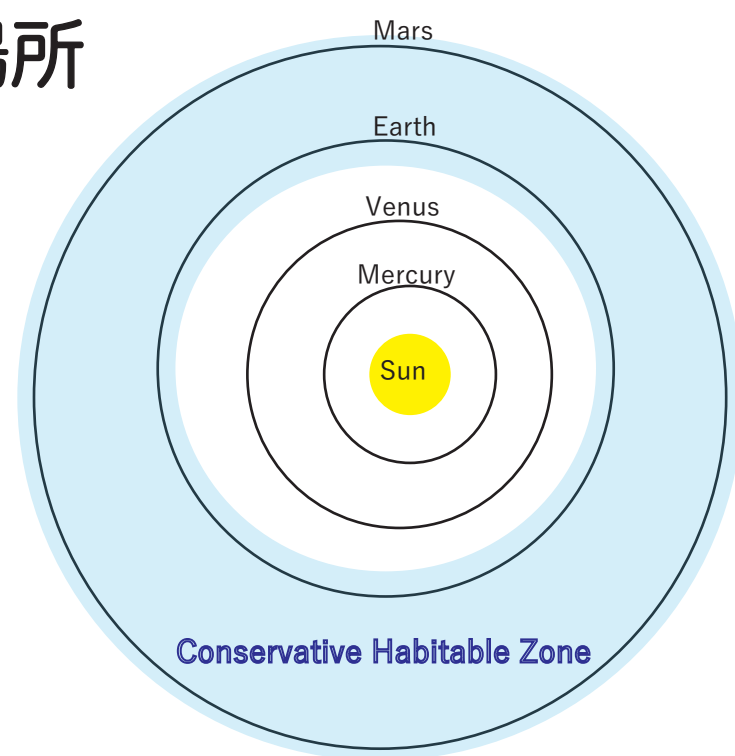


寄り生きる

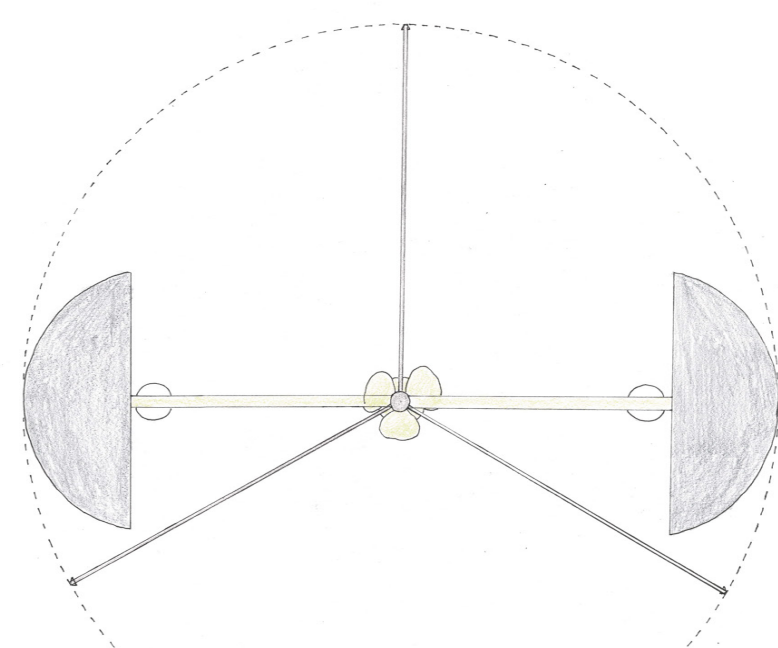
小惑星への寄生と空間の膨張



場所



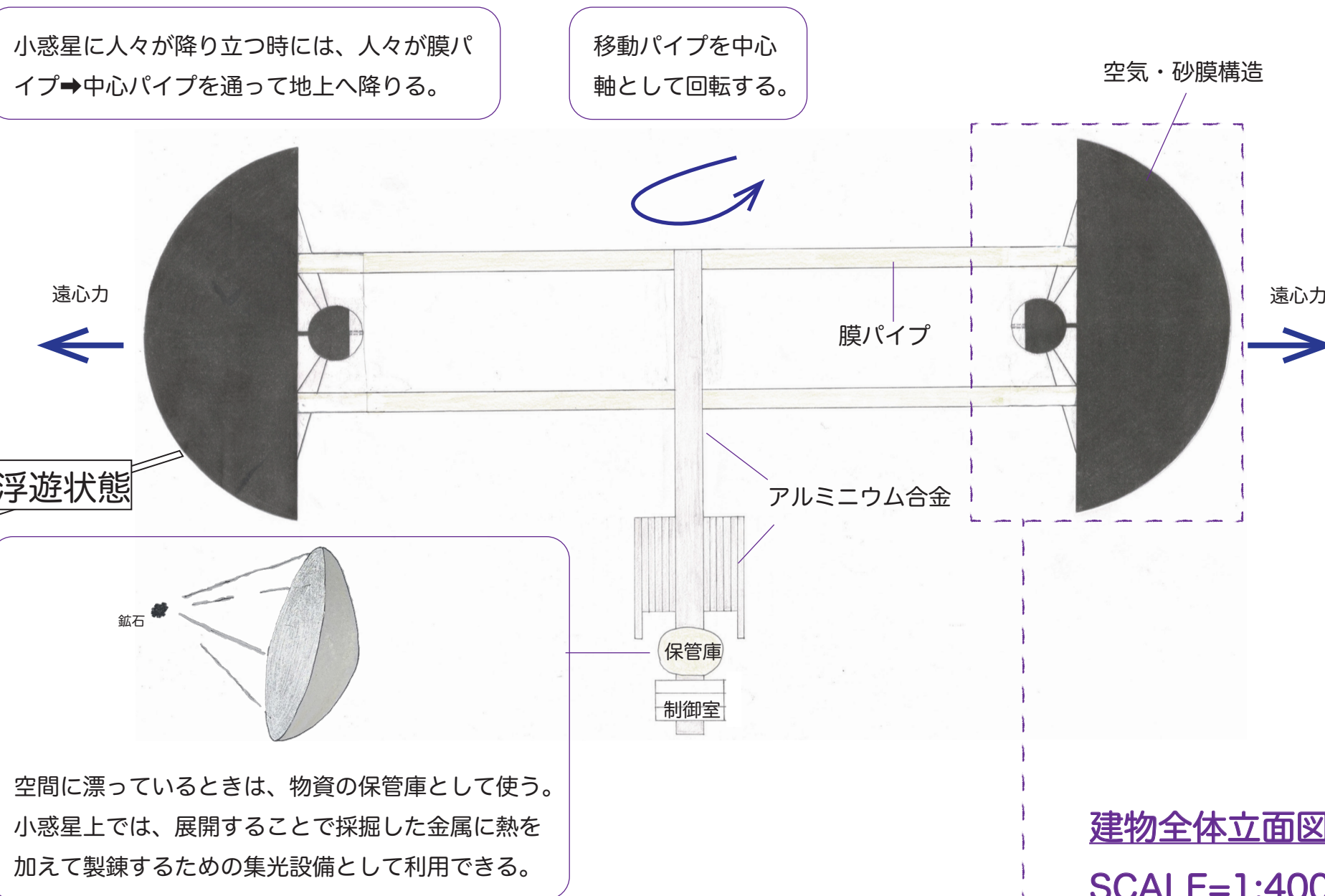
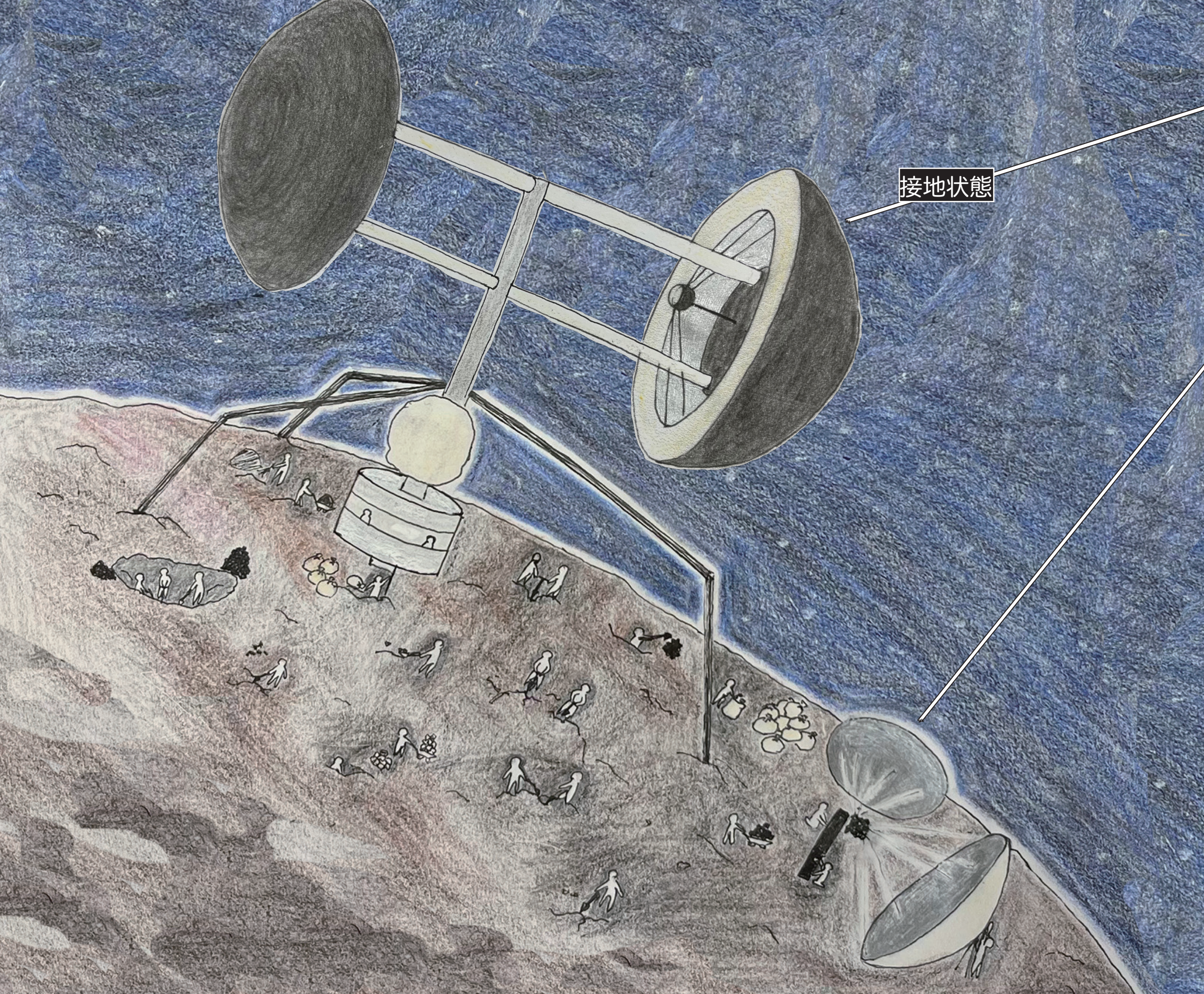
Conservative Habitable Zone 内で自由に動く。時々小惑星に立ち寄る。



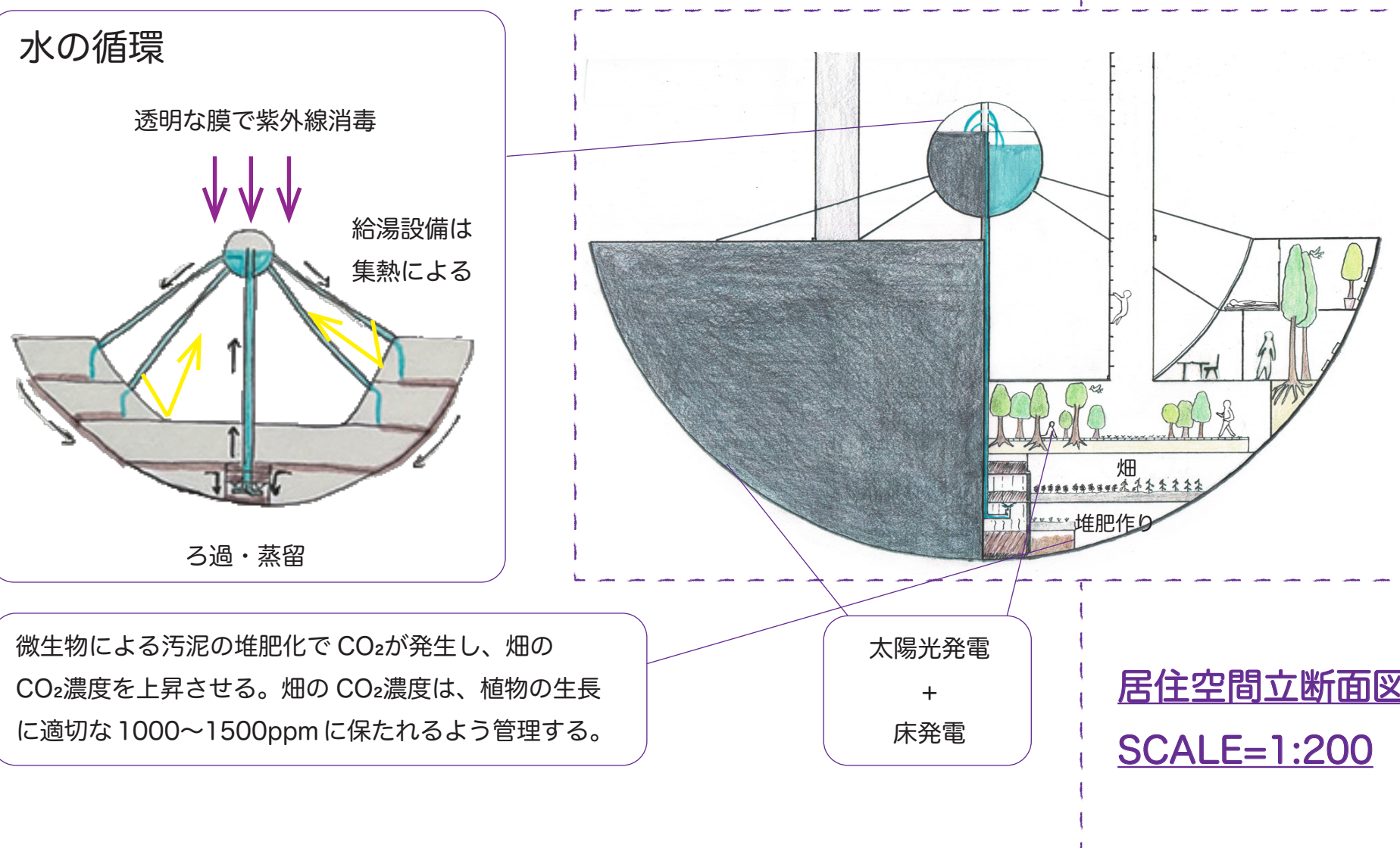
小惑星での配置図
SCALE=1:800

設計主旨

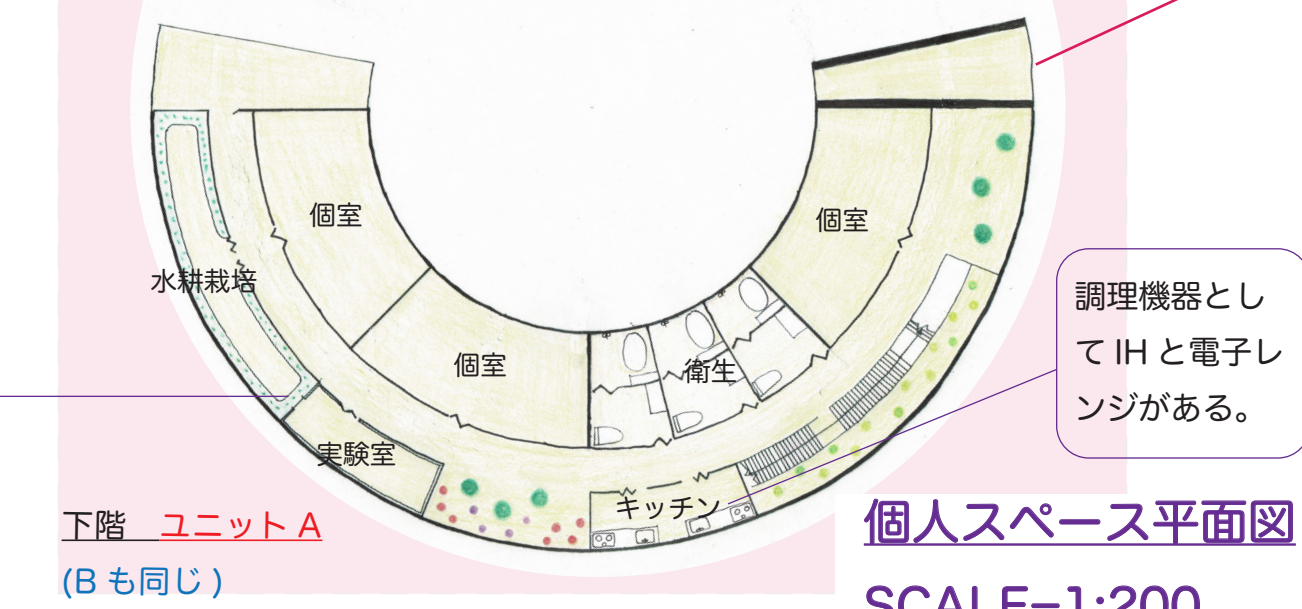
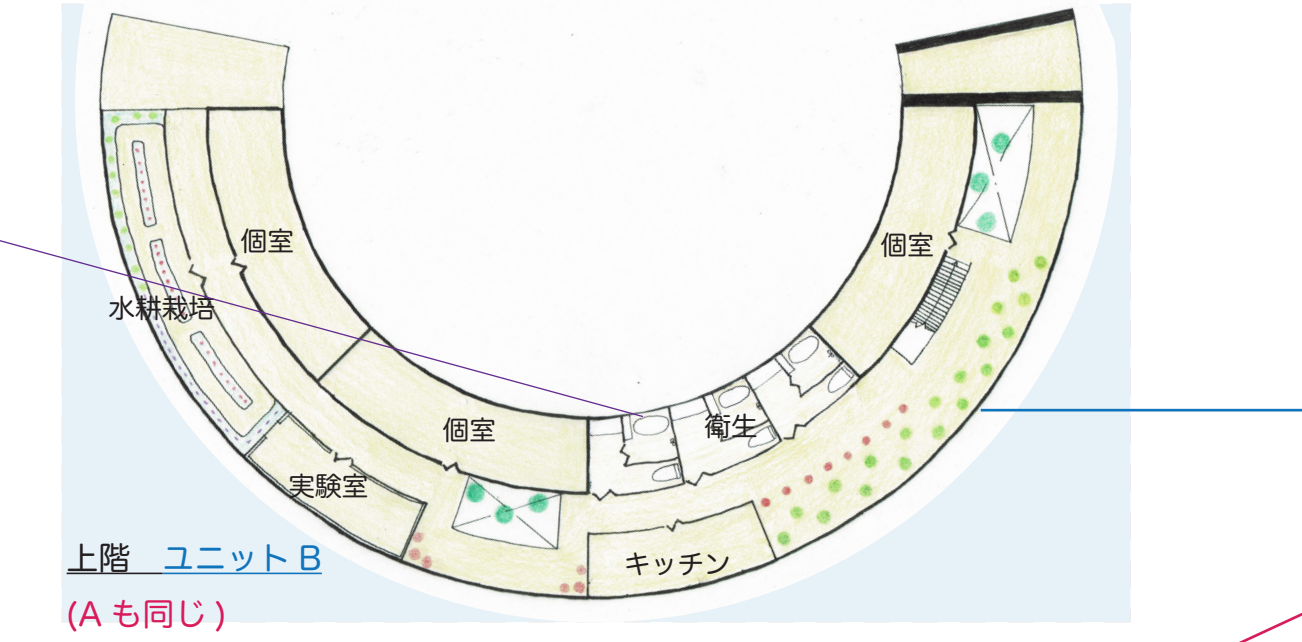
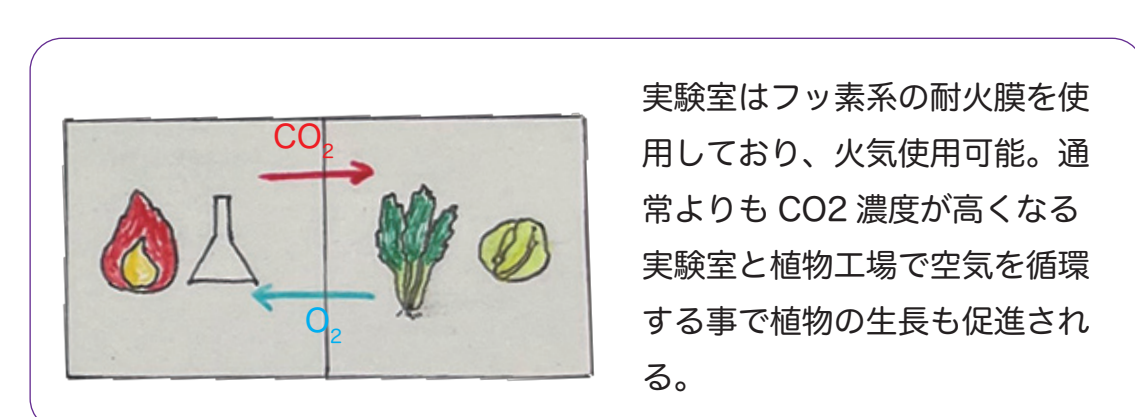
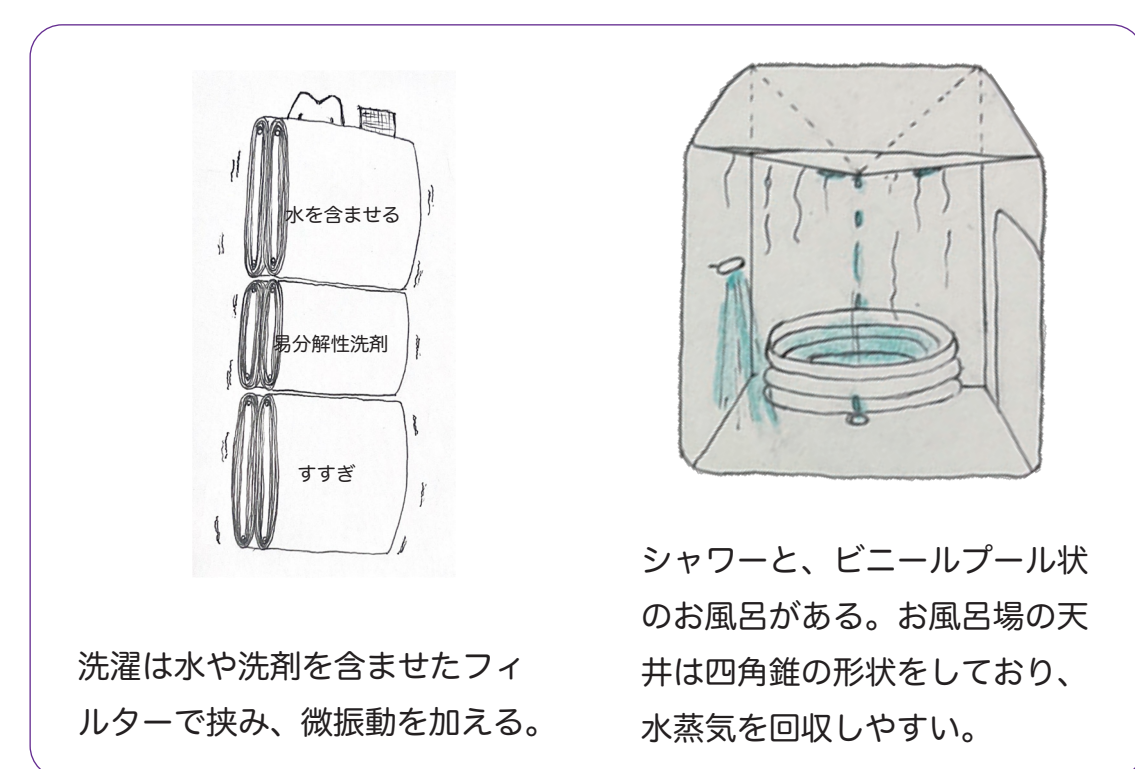
ひとつの星では固有の資源しか得られないが、宇宙空間には含む元素の異なる小惑星が多数存在している。小惑星には生物に必要な元素が含まれる可能性が高く、重元素が集まって利用しやすい。そこで、ハビタブルゾーン内にやってくる地球近傍小惑星に注目した。小惑星から資源を採掘し、採掘が終わると飛び立ち、太陽の周りを公転し始める。他の小惑星が近づいてきたら、また降り立って採掘を行う。さまざまな小惑星を移動しながら資源を集めて、居住空間を広げていく。小惑星に「寄生」して膨張していくような建築である。また、ユニット構造で、空間の膨張に従い、人々が寄って（集まって）くることも考えた。



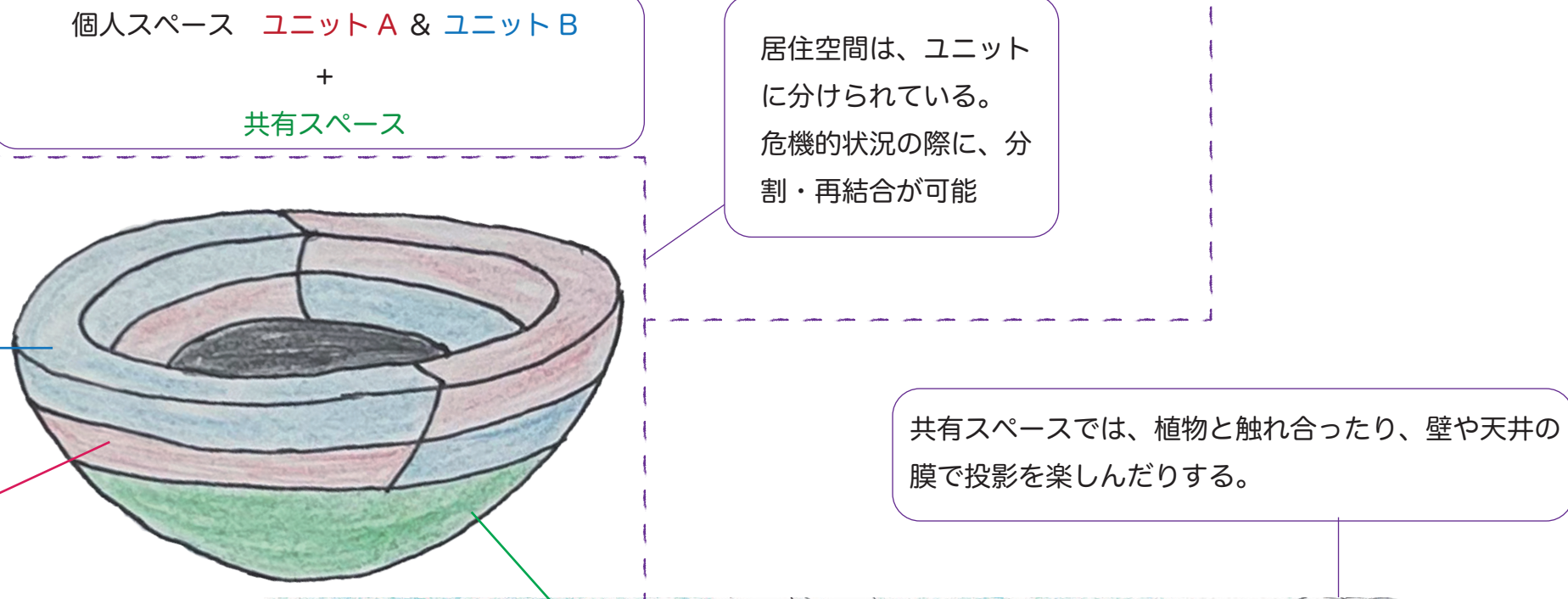
建物全体立面図
SCALE=1:400



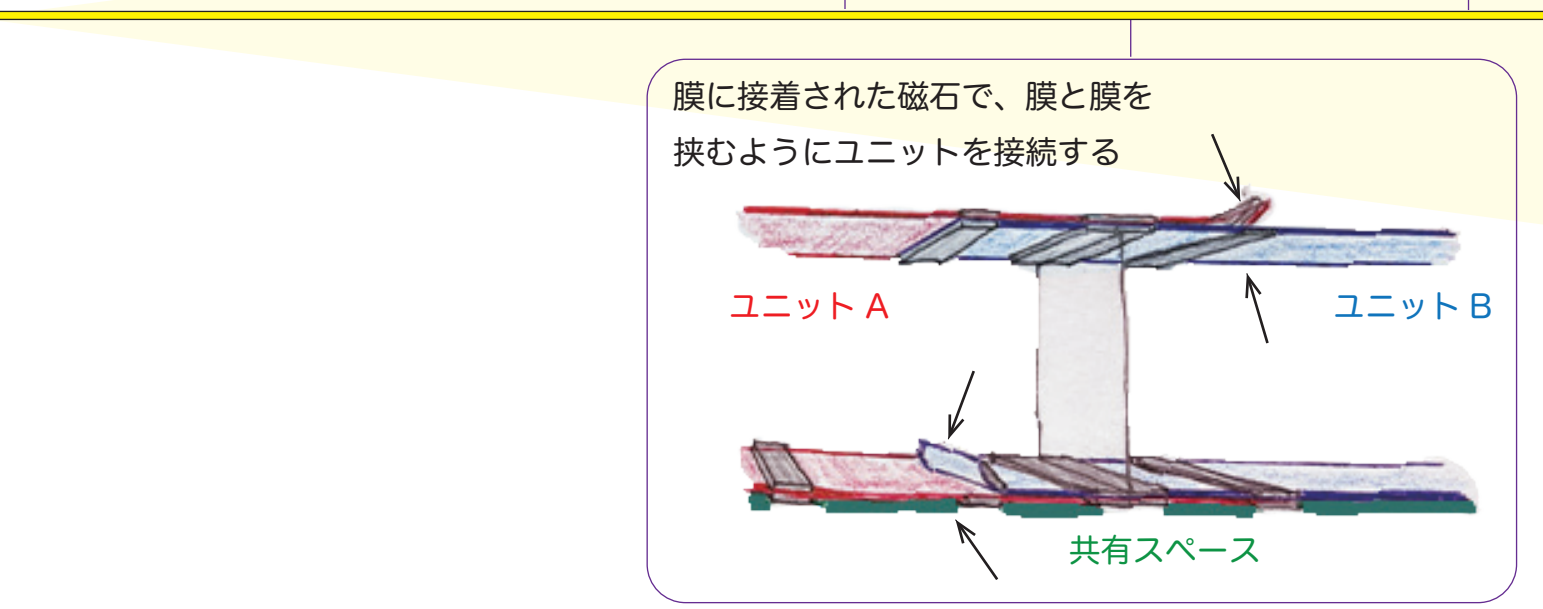
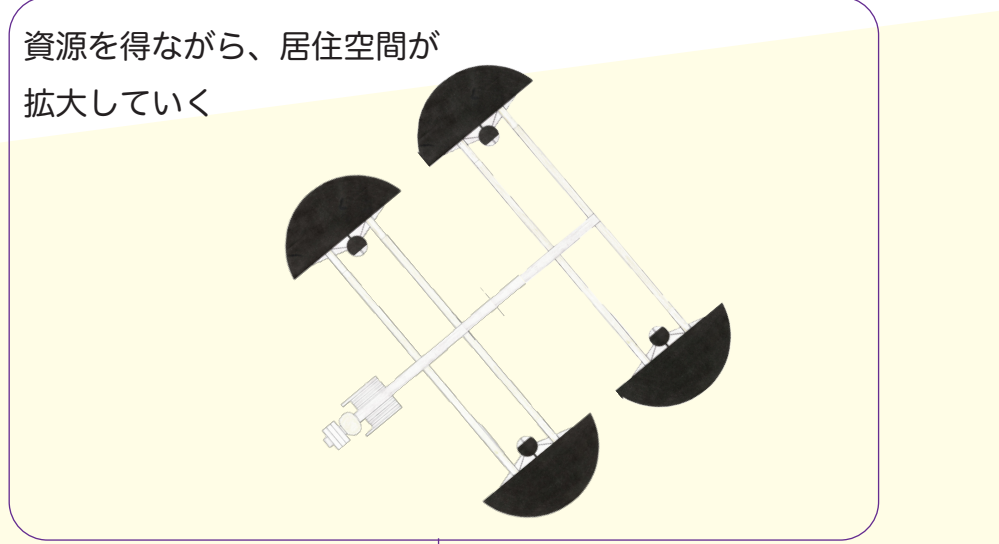
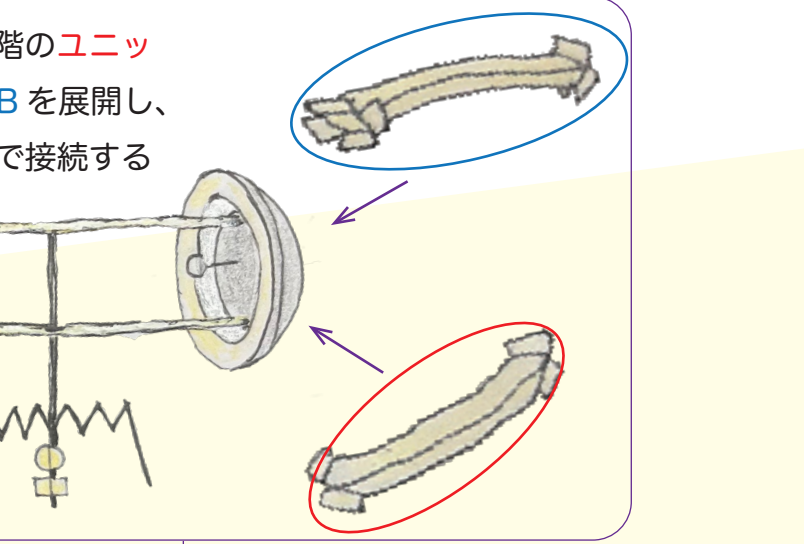
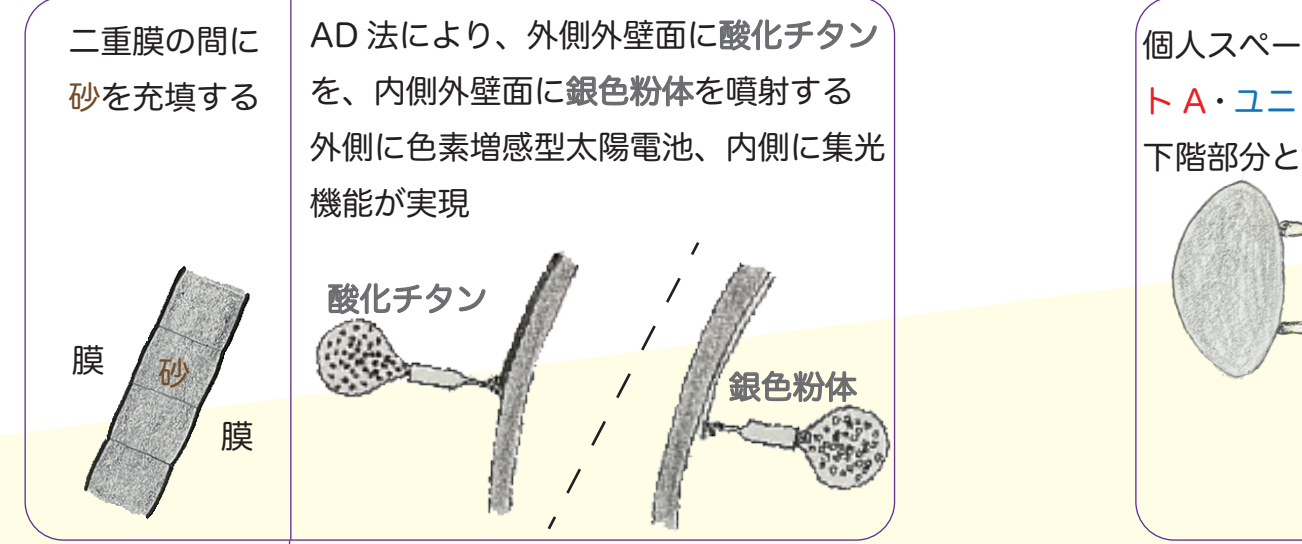
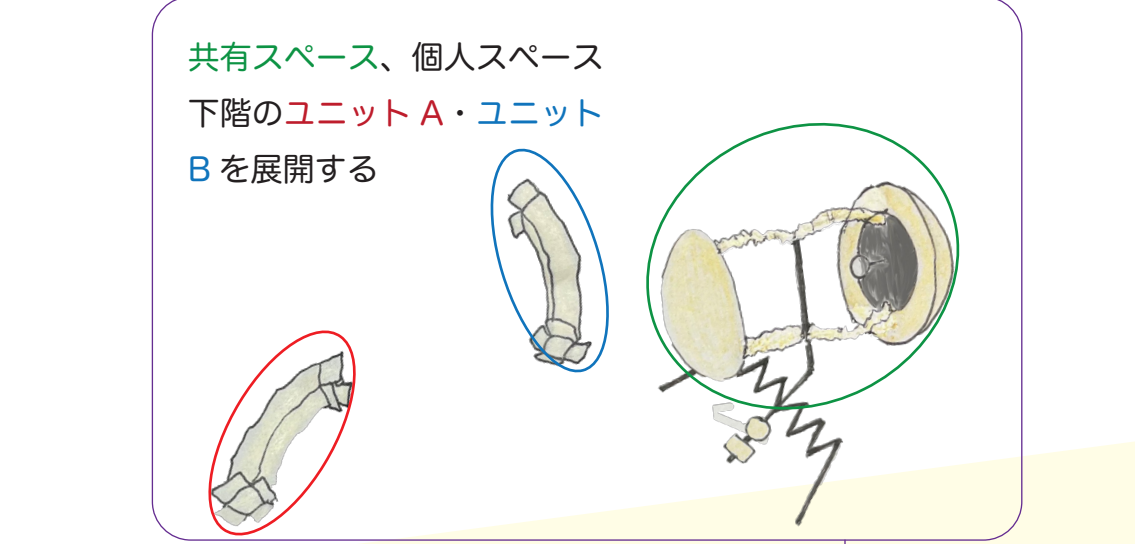
居住空間立断面図
SCALE=1:200



個人スペース平面図
SCALE=1:200



時間変化



Time